

【 がんばりました 】

審判生活45年間に区切り、小此木光二さん

楽しかった45年間、家族と仲間に感謝

今、振り返る45年間の道のりは、楽しい日々ばかりでなく苦労の連続でもありました。昭和45年に新田審判部を設立し、昨年平成27年までの45年をひとつの区切りとして審判生活を終了する事にいたしました。

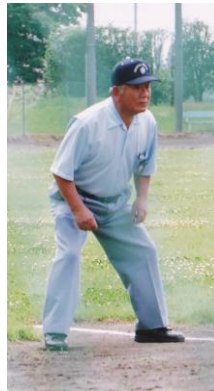
家族と多くの仲間に支えられながら過ごした思い出を、前期・中期・後期に分けて紹介したいと思います。



— 前期 —

昭和45年に新田町審判部を設立。野球のマナーや規則を定着させる。この頃は1日4試合、年間100試合を超える事も何年かあったが楽しい11年間でもあった。

写真は審判部のメンバー（筆者は右端）



— 中期 —

昭和57年から新田郡の審判部長として、太田市での全国天皇賜杯・国体等を担当。

昭和62年には関東公認審判員資格取得。充実した活動を展開していた矢先に、本社への転勤を命ぜられ4年間は月～金曜は東京勤務。土・日曜は群馬で審判と言う生活を送った



— 後期 —

4年間の東京生活を終え再び群馬へ。審判活動も太田市全域に拡大され、新たなスタートを切ることになった。

年間80～100試合を担当し、審判生活も45年。目標としてきた3千試合を達成でき、平成27年11月7日の試合を区切りに引退することとした。

平成27年12月13日群馬県野球連盟より功労者賞の受賞を受ける。



本投稿の全文と写真を、菱の実会ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧下さい。